

インターネットを利用して、次々とさまざまな情報にアクセスしていくことを海での波乗りにならべてネットサーフィンと言ったりします。インターネットに接続可能なデジタル環境にない場合、アナログで接続可能な乗りの方法として、私は、ネットサーフィンならぬ本乗り(ブックサーフィン)をできるだけ心がけています。これは消費電力を気にして節電する必要もなく、逆に我がところに発電効果をもたらしてくれます。たまに心がけが過ぎて本に乗り過ぎ自分に酔って、大袈裟に言うなら最初に何を読んでいたのかわからなくなったり、限られた時間を上手に使えなかったりするの で、けっして手放して褒められたものではありません。が、この行為には、自己の本性を回復させる効用があると考えています。

本の中で登場する人物や紹介された別の本に、どんどん関心が移動していくのです。それに伴いどんどん本も変わっていきます。自分を自分の方向に乗せてるん ですね。蔵書の中になければ、労を惜まず書店や図書館に出かけたりします。だから、最初の読書に明確な目的意識がない場合、好きにアンテナを張って いろいろと動く分、大仕事をしたような気分と疲労感に浸れるわけです。そこで、自らの今の志向性もわかったりします。昔から、何事にも自分が関心を向けられる点を探しては注目してしまう気 の多い私です。小さい頃にもよくありましたね、そういうの。挿絵に描かれた虫の絵を見て、まず昆虫図鑑を開き、そこに載っていた植物を調べるため、今度は植物図鑑に移って、さらに野菜が出てくれば、怒られながら冷蔵庫を何回も開けて中にある野菜をまじまじ見つめる。おかげで、宿題は捗らなかつたけれど 充実感はある、てな具合でした。

目的を持って取り組むことも大事ですが、一方で目的意識を持たない効用もあるわけです。世の中では、さまざまな波が私たちの生活に押し寄せてくるので、特定目的だけしか意識していないと想定外の波に足を 掬われ、結果救われない場合があります。民衆の足を掬うために、比較して小事にだけ注意を向けさせる方法があります。私たちは、そんな常套手段に引っ 掛かってはならないのであって、らしさが出る各種の無目的で自由自在な「自己を生かす方法(好きな波に乗る法)」を使わない手はありません。私 たち個々人の誕生も、親の想いは別にして、生命の誕生自体に何か目的があったわけじゃないでしょう。言わば無目的な波乗り現象は、人知を超えた生命現象の 1 類型ではないでしょうか。それに、各自の性格を伸ばしつつ意外で新たな発見をし続けられるのが私たちの私たちらしさだと思います。

日本の現役最年長で、今年 26 年目を迎えるプロサッカー選手のキングカズこと三浦知良さんは、「新しい発見があれば成長できる」と、語ってくれています。目的に応じた結果を得ることは当然で、一旦満足できる答えを得たなら、目的は完了して無目的状態に 戻ります。大部分が無意識で習慣的な日常では、無目的な状態が常態なので、自分で過剰に思い込んだり他者から注入された執着に囚われず、如何に自分らしく生きるのが大切になります。多様性教育のワークショップの時、参加者全員でその場のルールを作るのですが、そこでいつも私は「意外性を楽しむ」というルールを提案します。それは、たとえある目的で設定された学びの場であっても、そこから意外な発見もできる、そんな自分でありたいと願うからです。

今日、笑った?

by くらねこ



過去をじっくり返せば、未来になるんだよ